

# 中学校国語

A問題 平均正答率：75.9%（全国：79.4%） 平均無解答率：4.2%（全国：3.1%）

B問題 平均正答率：46.3%（全国：51.0%） 平均無解答率：5.0%（全国：3.5%）

生

生徒質問紙

学

学校質問紙

## 結果チャート

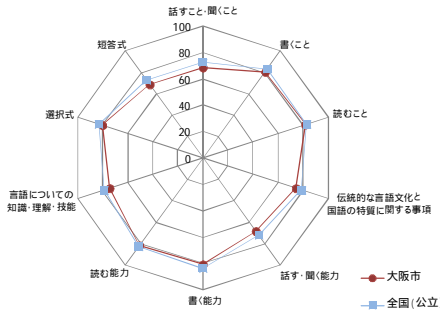
### 領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

A問題では、「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」「短答式」の項目で低い値を示しています。

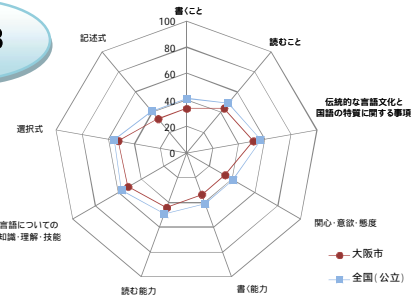
平均正答率及び平均無解答率については、P.2の表を参照のこと。

B問題では、「書くこと」「関心・意欲・態度」「書く能力」「記述式」の項目で低い値を示しています。

### 国語A



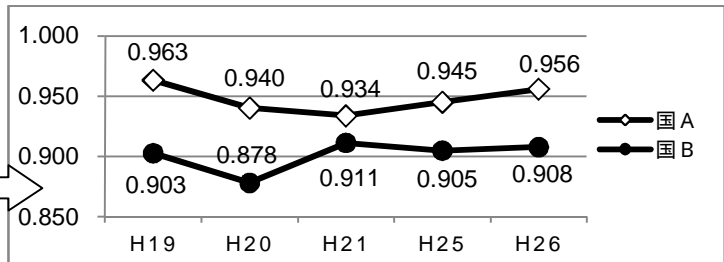
### 国語B



## 対全国比経年比較

グラフは、全国の平均正答率を1としたときの国語A・国語Bの大阪市の割合を表したものです。

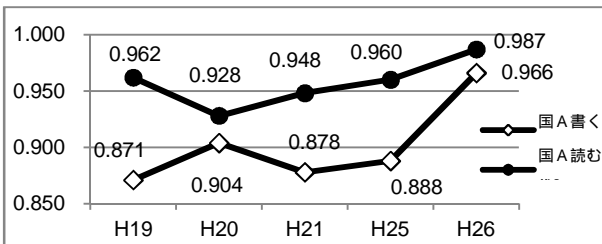
対全国比については、悉皆調査の平成19,20,21,25,26年度を取り上げています。



平成25年度と比べ、国語A・国語Bともにゆるやかな改善傾向にあります。

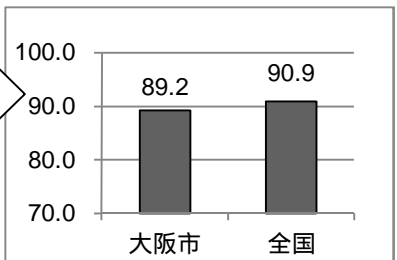
## 主として知識に関する「書くこと」「読むこと」にがんばりがみえています

国語A「書くこと」「読むこと」領域の対全国比に改善がみられています。



心情を情景で表す問題の正答率

主人公の気持ちの変化にふさわしい空の描写を答える問題(A21)

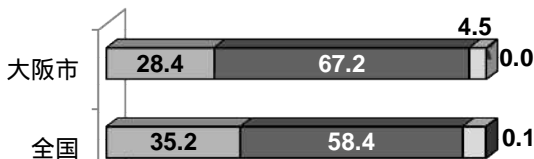


授業では「書く」「読む」習慣をつける指導が行われています。

学

書く習慣を付ける指導を行った

(肯定的回答:大阪市:95.6% 全国:93.6%)



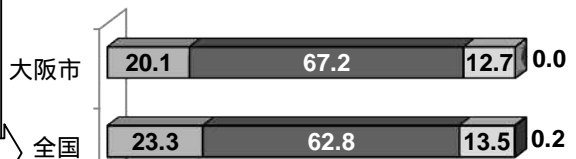
よく行った  
 ■どちらかといえば、行った  
 ■あまり行っていない  
 ■全く行っていない

肯定的な回答が全国を上回っています

学

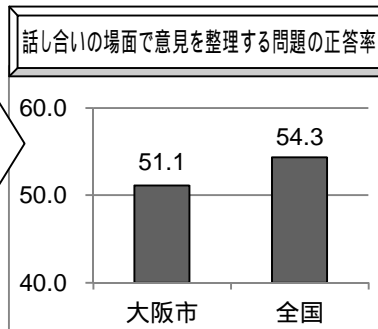
様々な文章を読む習慣を付ける指導を行った

(肯定的回答:大阪市:87.3% 全国:86.1%)



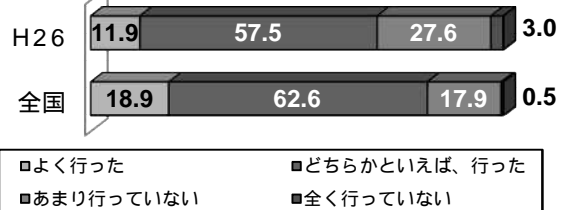
## 話し合う力をつけることに努力が必要です

卒業文集の題名を決める話し合いで、2人の発言を聞いて意見の相違点を整理する問題（A[6]一）



学

目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った  
（肯定的回答：大阪市：69.4% 全国：81.5%）



## 根拠を明確にし、分かりやすく説明することに努力が必要です

接着剤について書いた本とインターネットの資料を読み取り、「封筒に貼ってある切手を水の中に入れておくときれいにはがせる理由」を書く問題（B[2]三）

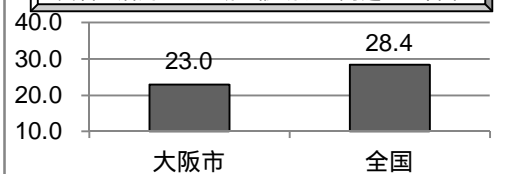
【正答例】

切手のりが液体になり、アンカー効果を失うから。

【誤答例】

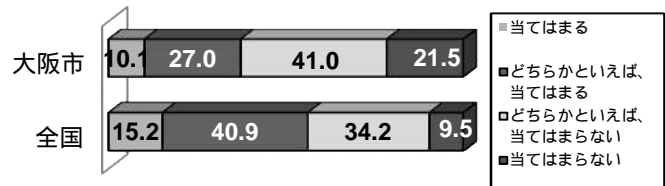
- ・アンカー効果でくっついてた切手が、水に浸すことで固体から液体になったから。（事実を明確に書けていない）
- ・アンカー効果がなくなったから、切手のりが固体から液体になった。（原因と結果を逆にとらえて書いている）

資料を活用して適切に説明する問題の正答率



生

目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている（肯定的回答：大阪市：37.1% 全国：56.1%）



### 学校で

目的に沿って話し合う活動を取り入れた授業を行い、話す力や聞く力を育みます。言語活動の充実を図り、根拠を明確にして分かりやすく説明する力を育みます。本やインターネットの情報など複数の資料を活用して読み取る力を育みます。読書タイムや朝の斉読書の時間を設ける等、読書習慣の形成を図ります。「学習教材データ配信」等を活用し、語句の定着や漢字の習得を図ります。学ぶ喜びを味わい自信がもてるように習熟度別少人数授業を活用し、学習への意欲を高めます。

### 家庭で

ニュースを基に会話を広げましょう。文章を書く機会をつくりましょう。親戚やお世話になった方に出す手紙には、改まった表現や漢字を適切に使う力が必要です。家族で感銘を受けた本を互いに紹介し合う時間をつくりましょう。

### 効果があった取組例

授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示し、最後に学習したことを振り返る活動を行っています。漢字の読み書きの問題をクイズ形式で行い、漢字の習得を図っています。学校図書館を充実し、読書活動を進めています。黒板の横に設置したホワイトボードに各教科の宿題を記入して、担任からの声かけを行っています。小中連携を行い、小中学校が協力して、一貫性・連続性のある指導を行っています。習熟度別少人数授業を効果的に活用し、個に応じた指導の充実を図っています。

大阪市の取組

「言語活動の充実」(P.35)「習熟度別少人数授業」(P.35)「学習教材データ配信」(P.37)  
「小中一貫した教育」(P.39)「学校図書館活性化事業」(P.40)「学び続ける教員サポート事業」(P.42)


## 課題と指導のポイント

調査問題の中で大阪市の子どもたちの平均正答率が特に低い問題  
 全国と比べて平均正答率の差が大きい問題  
 大阪市として継続して課題がみられる問題

### 【国語 A】(主として「知識」に関する問題)


#### 課題 目的に沿って話し合い、互いの発言を検討すること

- 6一 **設問の概要** 二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する。〔正答率 大阪市 51.1% 全国 54.3%〕  
**学習指導要領における領域** [第2学年] A 話すこと・聞くこと



南さん

「メモリー〜いつも隣に友がいた〜」がよいと考えます。修学旅行や合唱などの思い出を記録するのが文集だからです。読み返すたびに楽しかった過去を思い出すことができます。また、副題から、学級でいつも団結できたことも表せます。



高橋さん

「はばたき〜きずなを胸に〜」を推薦する理由は二つあります。一つめは、未来にはばたいていく私たちの姿を表す題名だからです。二つめは、

**指導のポイント** 複数の案から一つに絞り込む話し合い活動の際には、意見の共通点や相違点を整理する

特に相違点を明確にすることは、議論を焦点化する上で重要である。板書等で整理する際には、意見の内容を簡潔に示すだけでなく、対照的な内容を分かりやすく示すように指導することが大切である。

題名の候補について

	候補	メモリー 〜いつも隣に友がいた〜	はばたき 〜きずなを胸に〜
整理			
共通点	学級の団結力		
相違点	過去の思い出		

#### 課題 ・辞書を活用して語句の意味を適切に書くこと ・文脈に沿って語句の意味を理解すること

- 8三 **設問の概要** 適切な語句を選択する。  
 (ア良い結果を早く出したいときは、急がば回れといわれるように、かえって慎重に議論をすめるべきだ) 〔正答率 大阪市 55.2% 全国 59.2%〕
- 8四 **設問の概要** 国語辞典で調べたことを基に、語句の意味を書く。(英気を養う) 〔正答率 大阪市 56.0% 全国 59.9%〕
- 学習指導要領における領域** [第1学年及び第2学年] 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

**指導のポイント** 場面に即した多様な語句・語彙指導の工夫をする

語句についての理解を深めるためには、語句の辞書的な意味を基にして、話や文脈の中での意味を捉えることが大切である。例えば、同音異義語について、用いられている漢字や前後の文脈から意味を考えることなどが有効である。また、語感を磨き語彙を豊かにするためには、実際に話や文章の中でことわざや慣用句等を使い、その意味や用法を考えるなどの学習活動が効果的である。

**指導のポイント** 辞書を活用する

辞書を活用する際には、辞書の記述の仕方を理解した上で活用することが大切である。また、難語句を調べる際には、文脈に沿って語句の意味を選び、それが文中の意味として適切かどうかを確認することが重要である。

「読んでいた本の一部  
 十分に休養を取ったので、明日の英気を養うことができた。」

【国語辞典】

えいき【英気】(名) ①すぐれた才気。 ②活動する気力。

やしな・う【養】(他動・五段) ①衣食など、生活の面倒をみる。 ②脚を与えて動物を飼う。 ③体力・知力などを少しずつ作り上げる。

【国語 B】(主として「活用」に関する問題)

課題

複数の資料を比較して読み、要旨を捉えること

2一 設問の概要

本とインターネットの内容を比較したときの説明として適切なものを選択する。

[正答率 大阪市 30.1% 全国 31.4%]


学習指導要領における領域

[第1学年] A 読むこと

**【本の一部】**

いろいろな物をくっつけることができる接着剤。物を組み立てるときや壊れた物を直すときなどに、とても便利なものです。なぜ接着剤は物と物とをくっつけることができるのでしょうか。物をくっつける仕組みはいろいろありますが、ここでは代表的な仕組みを考えてみましょう。

接着する物の表面を顕微鏡で見ると、つるつるしているように見える金属でも、その表面には肉眼では見えない凹凸があることが分かります。そこに接着剤を塗ると、凹凸のすき間に接着剤が入り込みます。そして、すき間に入った接着剤が固まることで物がくっつきます。これをアンカー効果といいます。アンカーとは錨(いかり)のことです。接着剤が物をくっつける仕組みを海の底に錨を下ろし船を留めておく様子に例えて、そう呼んでいます。つまり、液体の状態の物の表面に広く行き渡った接着剤が、すき間に入って固体となることで、物と物をくっつけているのです。





～後略～

**【インターネットの情報の一部】**

**飛行機**  
飛行機の機体を組み立てるときも接着剤を使います。以前はリベット(びょう)でとめていましたが、接着剤を利用することで空気抵抗が少なく、機体が軽くなるので、速度性能や燃費が向上しました。また、リベットは点で固定していますが、接着剤でとめると、面で固定できるので、強度を増すことができます。

**スペースシャトル**  
スペースシャトルの表面にはたくさんのタイルが接着剤でつけられています。大気圏に突入するときのまさつねつと宇宙空間での太陽熱にたえるために、スペースシャトルの材料にはタイルが使われています。そのタイルが割れたり、はがれたりしないように、弾力があり、1500 の高温にもたえるすぐれた接着剤が使われています。

～後略～

(経済産業省ウェブサイトによる)

指導のポイント

目的に応じて文章の要旨を的確に捉えることができるようにする

目的に応じて文章の要旨を的確に捉えるためには、文章の特徴を踏まえて内容を正確に理解する必要がある。例えば、説明的な文章を読んで、更に調べたい内容を明確にした上で、様々な資料から必要な情報を的確に得る学習活動が有効である。その際、読む目的を明確にした上で、中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、必要な情報を正しく得るように指導することが大切である。

課題

伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くこと

2三 設問の概要

切手を水の中に浸しておくときれいにはがすことができる理由を書く。

[正答率 大阪市 23.0% 全国 28.4%]

学習指導要領における領域

[第1学年] B 書くこと [第2学年] C 読むこと

指導のポイント

伝えたい事柄を明確にして、分かりやすく書く指導の工夫をする

伝えたい事柄を整理して分かりやすく書く力をつけるために、目的や相手に応じて、取り上げる内容、それらを示す順番などを考え、よりよい文章にするように指導することが大切である。その際、取り上げる内容は適切か、それらの内容を用いて書いた文章が、伝えたい事柄を正確に伝えるものになっているかなどの観点で、文章を読み直すことが重要である。

指導のポイント

根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書く指導の工夫をする

本や文章を読んで考えたことを具体的に書く力をつけるために、本や文章のどの部分に特に興味や関心を持ったのかを明確に示した上で、なぜそこに着目したのか、その内容について自分はどのように考えるのかなどを丁寧に書くように指導することが大切である。例えば、引用した箇所と自分の考えとの関連、根拠として取り上げた内容の妥当性など、書いた文章を複数の観点から見直すことが重要である。その際、自分の考えに照らして、根拠として取り上げた引用や要約の量は適切か否かも考えることが大切である。

授業の改善・充実を図る際の参考事例

「平成26年度全国学力・学習状況調査を踏まえた授業アイデア例」P.7～14  
国立教育政策研究所ウェブサイト [http://www.nier.go.jp/jugyourei/h26/idea\\_03.html](http://www.nier.go.jp/jugyourei/h26/idea_03.html)